

平成 23 年 1 月 21 日
社団法人日本理学療法士協会
会 長 半田 一登
学術局長 内山 靖

日本理学療法学会大会における一般演題の取り扱いについて

日ごろは、協会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

すでにご存知の通り、本協会は日本学術会議から承認された学術研究団体として理学療法の確立と発展に資する活動を行っております。

お蔭様をもちまして、日本理学療法学会大会（以下；学会）では年を追うごとに一般演題数が増加し、平成 16 年の第 39 回学会（宮城県）では 1,000 題を超え、この 5 月に開催される第 46 回学会（宮崎県）では 2,000 題を超える演題応募がなされました。このことは、理学療法への高い関心と取り組みの成果として大変喜ばしいことと認識しております。

他方、数年前から、一般演題の質、適切な座長の選出と討論の推進、各都道府県理学療法士会等が実施する学会・研修会等との役割分担、学会開催に当たる物理的な制約の増加、などを議論してきました。その結果、第 45 回学会の開催地募集要項から、一般演題の総数を 1,200-1,500 程度として、より良質な学術発表に対して十分な議論を行えるような体制を整備することを理事会で決定いたしました。これに伴い、一般演題の応募区分を専門・認定理学療法士との整合性をはかったこと、抄録の文字数を増やしたこと、査読者の数を増やしたこと、査読表を詳細に変更したこと、などの措置を講じて参りました。

上記をご理解のうえで、会員の皆様には、より厳選された演題をご応募いただき、あわせて各都道府県理学療法士会等が実施する関係学会を視野に入れた学術活動を実践くださいますようお願いいたします。

第 46 回日本理学療法学会大会での一般演題の採択について

学術大会長 武田 禎彦
準備委員長 吉田 敏朗

標記大会における一般演題募集では、2,086 題と過去にない多くのご登録をいただき、誠にありがとうございました。

上記の経過の通り、理事会での方針に則り、協会学術大会部、専門領域研究部の支援を受けて実施した査読結果を基に、1,501 題の演題を採択いたしました。採択率は 72.2%と、従来と比較しますと低い採択率になりましたことをご報告申し上げます。

査読結果は、これまでの学会と比較しても各応募領域において大きな差異はなかったとの検証を行っております。何卒、皆様方にはこのような趣旨をご理解のうえで、一人でも多くの皆様が学会にご参加いただき、有意義な討議に加わっていただきますようお願い申し上げます。